

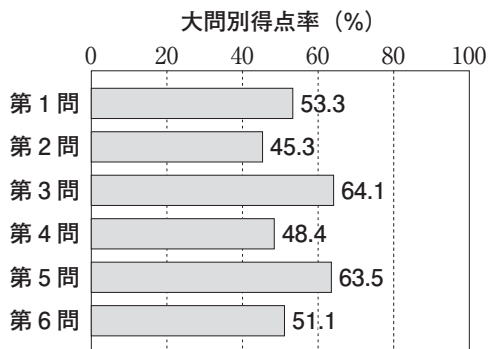
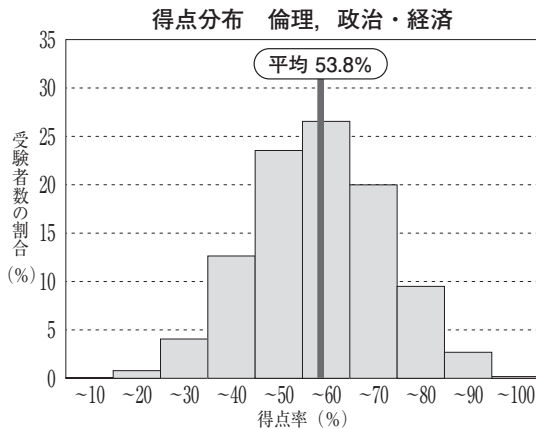
倫理, 政治・経済

設問の解き方にも工夫が必要。残りの期間を悔いのないように。

I. 全体講評

今回の「最終 12月センター試験本番レベル模試 倫理, 政治・経済」の平均点は、53.8点であった。センター本試の平均点が例年ほぼ60点台であることを考えると、やや不安の残る結果である。特に気になったのは、得点源にすべき倫理分野の資料文・本文読解問題で、取り切れていなかったことである。知識の有無で勝負が決まる設問なら試験会場ではどうにもできないが、読解問題なら時間をかければ確実にとれるはずだ。

今回の模試を受けて、苦手箇所が明らかになった者も多いだろう。手当すべき箇所を中心に底上げを図ってもらいたい。残された時間は限られているが、ここからのラストスパートで奮闘し、せめてプラス10点は目指そう。



II. 大問別分析

第1問 青年期・現代社会分野

資料文読解問題で多数の受験者が失点した。

青年期・現代社会分野全体の得点率は53.3%と、もうひとつであった。通常であれば得点源となるべき資料文読解問題の間2 [2] で正答率が28.5%にとどまってしまったのが痛かった。過半数の受験者が②を選択しているが、これは一つ一つの要素は読み取れているものの、その前後関係を理解できていないことを意味する。確かに難しい文章だが、それだけに時間をかけて慎重かつ丁寧に読解することが求められる。資料文読解問題やリード文読解問題では、失点しないようにすることが重要である。

第2問 源流思想・日本思想分野

細かい知識の求められる設問は正答率が非常に低い。

得点率は45.3%と、全分野を通して最も低かった。なかでも近世儒学についての問4 [9] は、正答率がわずか19.5%にとどまった。8択の組合せ問題は正答率が低めに出るが、それにしても十分な学習をした受験者であれば正解にたどりつけるべき設問である。近年増えている、知識量がものをいう設問に対応できていない状況がうかがえる。

第3問 源流思想・西洋近現代思想分野

得点率はまずまずだが、読解問題で稼いだ要素が大きい。内容理解はまだまだ。

大問の得点率は64.1%と、全分野を通して最も高かった。要因は、資料文読解問題である問4 [16] と、本文読解問題である問6 [18] の正答率がいずれも90%を超えたことにある。思想内容の理解が問われた問3 [15] や問5 [17] などでは正答率が3~4割にとどまっているから、まだまだ不十分と言わざるをえない。

第4問 基本的人権

重要分野だが、得点率が低かった。つめの甘い理解が浮き彫りに。

大問としての得点率は48.4%と、政治・経済分野では最も低かった。特に、明治憲法における権利と義務についての問1 [19]では、正答率が11.5%であった。盲点が突かれた形だが、明治憲法でも自由権が表向きは保障されていたことは押さえておかなければならない。また問3 [21]、問7 [25]ではやや細かい論点が問われていたため、苦戦した受験者が多かった。

第5問 労働・中小企業

1問を除いて高得点だった。誤文のポイントをよく確認しよう。

比較的平易な設問が多かったこともあり、得点率は63.5%と、政治・経済分野で最も高かった。労働三法についての問1 [27]の正答率が21.7%にとどまったが、その他の設問がいずれも正答率60%を超えただけに、もったいなかった。過半数の受験者が労働基準法で最低賃金が定められていると誤解していたようなので、この機会に確認してもらいたい。

第6問 国際連合

細かめの事項については知識の抜けが目立つ。

大問としての得点率は51.1%と、振るわなかった。地域紛争についての問5 [36]は正答率が83.5%に達したが、国連についての問1 [32]～問4 [35]は、伸び悩んだ。特に「平和のための結集」決議についての問3 [34]は、正答率が29.2%に留まった。解答が大きく分散しており、まったく判断できなかった受験者が多かったと見られる。

Ⅲ. 学習アドバイス**◆残された期間にやるべきこと**

公民科目はどうしても後回しになりがちなので、万全の態勢で今回の模試に臨んだという受験者は必ずしも多くないかもしれない。他教科と比べると、確かに終盤の努力で底上げの可能性が高いということは言える。残された期間を最大限に有効活用しよう。

まだ全分野の学習を終えていない受験者もいるか

もしれないが、そうした者が今から講義型の参考書を慌てて読んだり、一問一答型の問題集などをせつせと暗記したりしても、大きな効果は期待できない。こうした学習は時間的にロスが大きいのだ。今は過去問をつぶすことに注力しよう。

もちろん、分からない問題がいくらかでも出てくることだろう。しかし、気にすることはない。いきなり解説を読み、理解できない事項については用語集などで調べよう。それでポイントが納得できれば十分だ。インプットを終えたあとにアウトプットのトレーニングをするのではなく、アウトプットしつつインプットしていくのである。

◆本番に臨む姿勢

センター試験本番では、すべての設問に本気で取り組もう。当たり前のことなのだが、これまでの模擬試験でケアレスミスが一つもなかったと言える受験者はまずいないはずだ。実力で解けない問題については仕方ない。しかし、本来なら解けたはずの問題を落とすというのは本当にもったいない。こうしたものを一つでも減らすには、気迫と執念と集中力で臨むしかない。成績がいい者はケアレスミスも少ないものだ。これに反して成績の振るわない者ほど、実力すら出し切れていない。実力を出し切る執念が勝利につながるのだと肝に銘じて、頑張ってもらいたい。健闘を祈る。